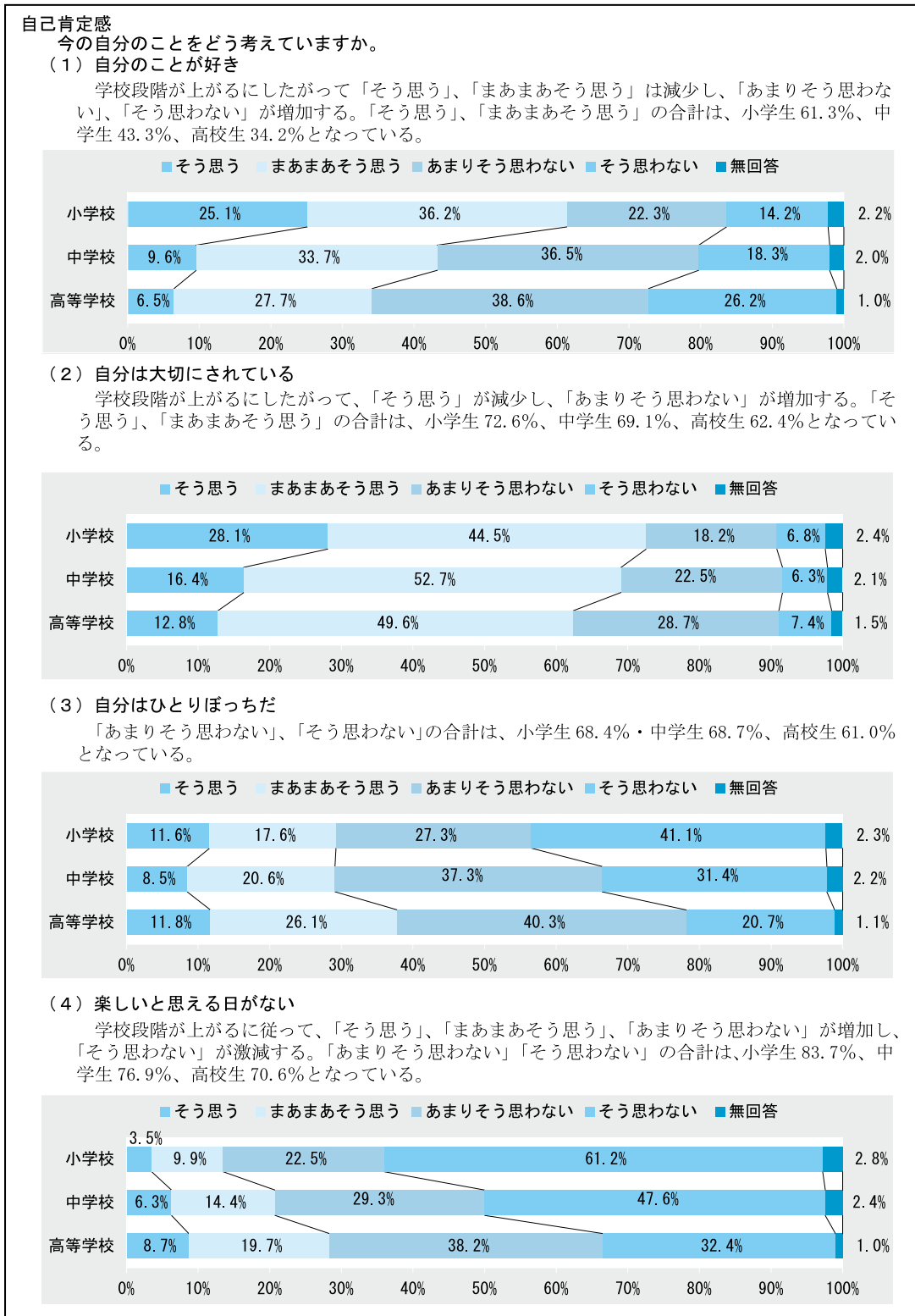


## 2 自己肯定感

青少年生活意識調査（平成 24 年 3 月）によると、自己肯定感に関する質問の結果は次のとおりです。学校段階が上がるにしたがって自己肯定感が低くなってきています。

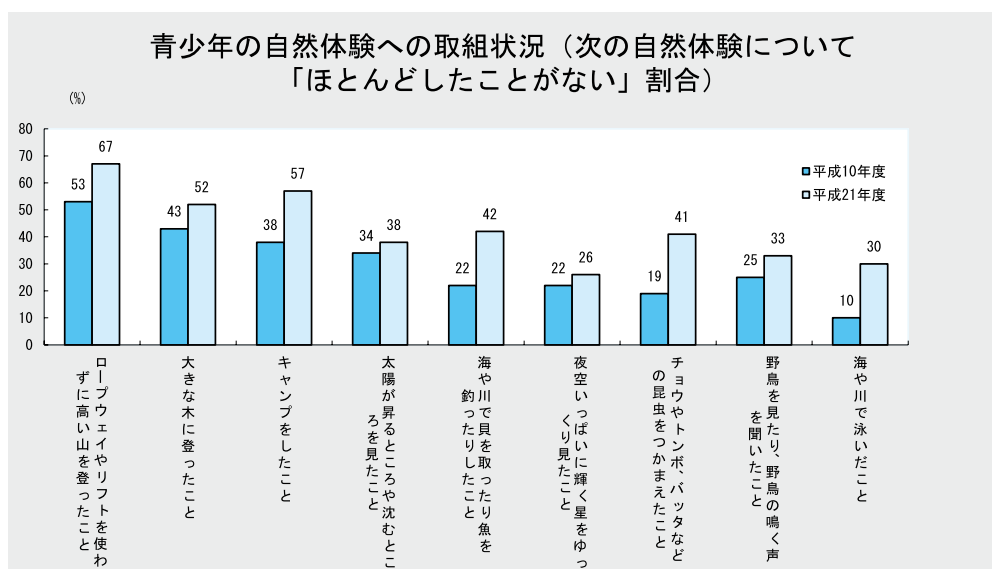


資料：次世代サポート課 「青少年生活意識調査」

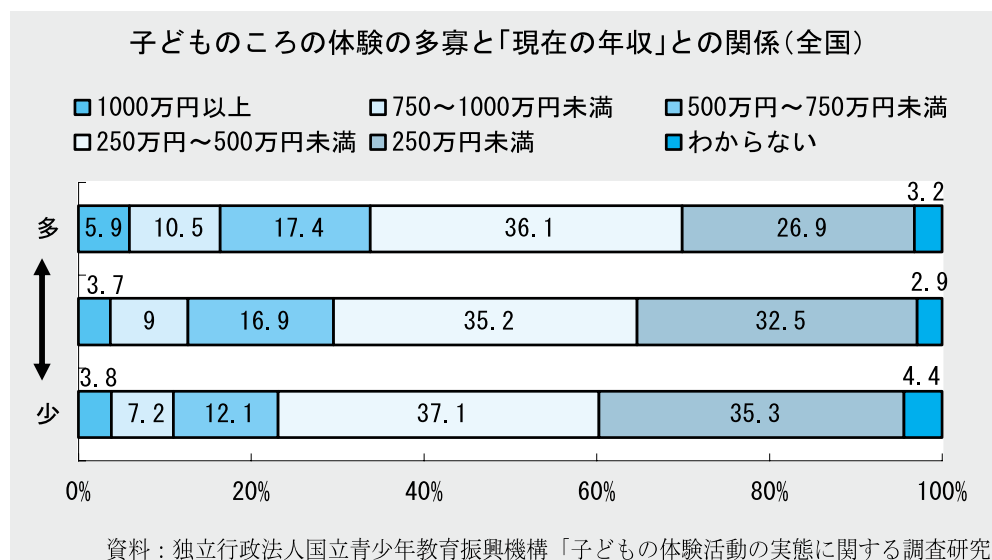
## 9 社会教育・社会参加

以前の子どもたちは家の近くの小川や里山が遊び場であり、学年を越えた縦の繋がりや屋外での自然体験などを通じて、豊かな人間性を育み社会性を学んでいました。

最近では、家庭用ゲーム機やパソコンの普及などにより屋外での遊びや異年齢との交流が減り、社会性を培う機会も減ってきており、自然体験活動の重要性が指摘されています。



資料：内閣府「平成22年度子ども・若者の状況及び子ども・若者育成支援施策の実施状況」



資料：独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」

### ※子どものころの体験

- ・自然体験（海や川での魚釣り、湧き水や川の水を飲んだこと等）
- ・動植物とのかかわり（米や野菜の収穫、昆虫の捕獲等）
- ・友だちとの遊び（かくれんぼ等の遊び、友人とのケンカ等）
- ・地域活動（祭りへの参加、近所の小さい子との遊び等）
- ・家族行事（家族の誕生日、家族の病気の看病等）
- ・家事手伝い（ナイフや包丁に使用、食器の準備等）

## 10 若年無業者・ひきこもり

### (1) 若年無業者

平成21年度の若年無業者の全国推計値については84万人となっており高止まりの状況です。その中でも平成14年度以降特に変化があったのは35歳～39歳で、6万人増加しています。

平成19年度の「就業構造基本調査」によると、長野県の若年無業者は、全体で10,100人と推計されており、20歳～24歳と35歳～39歳の年代が多い傾向にあります。

男女別に見るとどの年代でも男性が多い結果となっています。

